

保健福祉(事務調査報告)

■看護専門学校について

看護専門学校は、富良野圏域の看護職員の確保のため、平成6年に開設され、卒業者数の累計は548名、市内医療機関への就業者数は159名を数え、大きく地域貢献しています。

教育課程では、平成22年に単位の増加に伴う改正を行いながら、学生に対しきめ細かな指導が行われ、その成果は看護師国家試験合格률にも反映されて、平成17年から8年連続で合格率100%を達成しており、この高さは看護専門学校の設置意義をさらに深めています。

委員会では事前に学習環境充実の点で委員間協議をし、現状把握のため学校の現地調査及び担当部局と意見交換を行い、その中では諸課題があげられ次のように意見をまとめました。

1点目は、校舎が竣工してから20年が経過し、劣化等による雨漏り対策を毎年行っているが、良好な学習環境を提供するために原因を調査し抜本的改



富良野看護専門学校

修が必要。2点目は、現在の看護技術や医療水準に見合った教材への更新や教科書のIT化への検討が必要。3点目は、臨地実習後の振り返りの長時間傾向、単位数の増加などで看護教員の研修参加が困難な状況にあり、代替教員の確保を中心に研修への参加が可能となる体制の構築に向けた取り組みなどの課題解決が必要。

今後、少子高齢化の進展などで看護師をはじめ医療従事者に対する社会的要請は、ますます増加し看護専門学校が果たす役割は大きくなることから、地域に貢献できる看護師を輩出し続けるためにも、多くの関係者の努力を期待し報告とします。

経済建設(事務調査報告)

■富良野農業の新時代を築くための新たな農業振興組織について

「農業振興について」調査の結果を報告します。

富良野らしい農業とそれを目指すべく施策の方向性について、農業、農村集落、農地の問題は、個別に議論すべきものではなく、どれもが関連するものであり、行政が主導的な立場になり、その課題解決の推進体制を確立していくべきと各委員の意見が一致したところです。

具体的には、市、農業委員会、農協、土地改良区、普及センター、共済組合等、農業に携わる団体が、各々の課題を持ち合わせた中で議論ができる新たな農業振興組織のあり方を検討し、その事業推進には地域を代表する農業者も加わることで、組織全体で地域の実状を把握し、共有できる体制を整備することが求められます。その中で各団体がそれぞれ策定している計画の

整合性を確認して、現状と課題をすりあわせ、将来的な富良野農業の目指すべき方向性の一致を図るべきです。

また、各団体が取り扱う国や道の補助事業についても関連するものを統一して、効率的な事業要望や予算執行を図り、あわせて地域の農業者の意見を吸い上げ、実態に即した農業施策の立案・遂行を目指すべきです。

新規参入者・就農者については、その相談・支援窓口を本組織へ一本化することで、個々の農業者に対応の差異が生じないように、各種制度や事業の周知を図り、就農後のサポートまで一貫した指導体制とすることが望ましいと考えます。



富良野らしい農業を目指して